水稲の 10 月の巡回調査結果の概要

【東北信】

1　斑点米（予察ほ場の斑点米調査）【調査日：９月９日、10 日、28 日】

(1) ９月９日に佐久市､上田市及び千曲市､９月 10 日に飯山市の予察ほ場において収穫を実施した。その後、９月 28 日に脱穀及び籾摺りを行い、玄米を調査した。

(2) 斑点米の発生は、全ての予察ほにおいて、平年と比べてやや多かった。

(3) 斑点米以外の着色米の発生は、全ての予察ほにおいて、ほぼ平年並であった。

2　イネ黄萎病（再生稲調査）

【調査日：10 月９日、13、14、15 日】

＜巡回調査地点:29 地点、参考調査地点:９地点＞

(1) 巡回調査ほ場及びその周辺ほ場を調査した結果、再生イネ（ひこばえ）におけるイネ黄萎病の発生は確認されなかった。

(2) 過去にイネ黄萎病の発生が確認された地点（参考調査地点）についても併せて調査した結果（東信地域は対象地点なし)、再生イネ（ひこばえ）におけるイネ黄萎病の発生は、一部ほ場で散見されたものの、ごく少発生であった（写真１)。

(3) イネ黄萎病以外では、イネ縞葉枯病の発生がみられた（写真２)。



写真１　イネ黄萎病（北信地域）



写真２　イネ縞葉枯病(北信地域)

【中南信】

1　斑点米（予察ほ場の斑点米調査）【調査日：10 月 29 日、30 日】

(1) ９月２日（南木曽町)、９月４日（安曇野市)、９月 11 日（大町市)、９月 18 日（諏訪市、伊那市)、９月 24 日（飯田市）に収穫、10 月６日に脱穀、籾摺りを行った玄米を調査した。

(2) 斑点米の発生は、伊那市、飯田市、南木曽町、大町市の予察ほで平年より少なく、安曇野市で多かった。なお、諏訪市の予察ほは本年度から移転しており、カスミカメムシ類による登熟前半の加害によって発生する頂部黒変粒が目立った（写真３）。

(3) 斑点米以外の着色米の発生は、伊那市、南木曽町、大町市の予察ほで平年より少なく、飯田市、安曇野市で平年並であった。飯田市の予察ほでは、着色粒の約２割がくさび米であった。

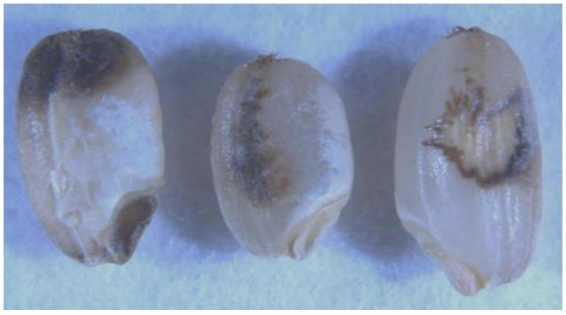


写真３　カスミカメムシ類優占ほ場にみられた斑点米（中信地域）
（左：頂部黒変／中央：鉤合部しみ状／右：鉤合部斑紋状）

２　イネ黄萎病（再生稲調査）

【調査日：10 月 13 日、14 日、15 日、 9 日 19 日、23 日、27 日】

＜巡回調査地点:32 地点、参考調査地点: 6 地点＞

(1)巡回調査ほ場及びその周辺ほ場における調査では、再生イネ（ひこばえ）にイネ黄萎病の発生はみられなかった。

(2)過去にイネ黄萎病の発生が確認された地点（参考調査地点）について併せて調査したが、発生はみられなかった。

(3)その他、イネ縞葉枯病の発生がみられた（写真４）。



写真４　再生イネ（ひこばえ）にみられたイネ縞葉枯病（中信地域）